



第179期

事業報告書

2002年4月1日～2003年3月31日

CONTENTS

株主の皆様へ	1
連結事業の概況	3
Yamaha @ Present (特集)	5
What's New (トピックス)	7
Premium New Comers (新製品紹介)	9
業績の推移&ハイライト	11
連結財務諸表	13
単独財務諸表	15
株式関連	17
会社の概要	18
役員	18
株主メモ	18

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当社第179期(2002年4月1日から2003年3月31日まで)の営業の概況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、個人消費が低迷する中、住宅投資、民間設備投資も減少傾向が続き、依然として厳しい状況が続きました。海外の景気は、米国、アジアを中心として回復基調で推移しましたが、期の後半には米国経済の成長に驕りがみられたほか、期末にはイラク情勢の緊張が高まるなど先行きへの不安が広がりました。

このような状況の中で当社は、技術開発力、商品企画力の向上に努め多くの新商品を市場に投入するとともに、低迷する国内市場の活性化に取り組んだほか、生産・物流の効率化、事業再構築、事業提携を積極的に推進してまいりました。また、中国統括会社や製造現地法人を設立するなど、成長市場への積極的な投資を行いました。メディア関連では、音楽ポータルサイトの充実やインターネット上での一般消費者向け通販事業参入などネットビジネスの拡大を図りました。

販売状況につきましては、楽器事業は海外で売上げを伸ばしたほか、電子機器・電子金属事業でも半導体の伸長により売上げ増加となりましたが、AV・IT事業はパソコン用CD-R / RWドライブ事業からの撤退により売上げ減少となりました。

以上により連結売上高は5,247億63百万円(前期比4.0%増加)となりました。このうち、国内売上高は3,121億29百万円(前期比7.6%増加)、海外売上高は2,126億34百万円(前期比0.8%減少)となりました。

連結損益につきましては、半導体が大幅に売上げを伸ばしたのをはじめ全体的に堅調な売上げとなったこと、および製造原価の低減と販管費の合理化に努めた結果、経常利益は338億39百万円(前期比340.6%増加)となり、当期純損失102億74百万円となりました。

当期の利益配当金につきましては、1株につき5円(中間配当と合わせて年10円)とさせていただきます。

当社は、「成長へのチャレンジ」「グループ連結経営」「企業価値の増大・ブランドを輝かす」を目標に中期経営計画「感動創生21」を進めてまいりましたが、その最終年度にあたり、成長基盤の確立、さらなる経営の効率化の実現に向けて引き続き下記の課題に取り組んでまいります。

楽器事業では、新商品の効果的な市場投入、成人向け音楽教室や演奏する場の拡大、楽器レンタル事業などを通して国内市場の活性化、楽器需要の開拓に努めるとともに、中国における生産・販売体制のスムーズな立ち上げに注力してまいります。

AV・IT事業では、「ホームシアター1戦略」の推進、中国における事業の早

期立ち上げ、ネットワーク化、ソリューションビジネスでの成長を加速してまいります。

電子機器事業では、音源ビジネスの拡大と新たなビジネスユニットの確立に努めます。

コンテンツ事業では、携帯電話着信メモリー配信サービスのグローバル展開とメディア総合戦略展開に向けたデジタルコンテンツ制作能力の充実を図ります。

リビング事業では、コストダウンによる収益改善とリフォーム市場での高付加価値ビジネスモデルの構築に努めます。

また、レクリエーション事業では、各施設の特徴を活かした営業展開により集客数の増大と収益改善を図ります。ゴルフ事業は、対象顧客を明確にした商品開発とマーケティングを通して拡売を目指します。

電子金属事業では、生産構造改革による事業基盤強化、FA・金型事業では、マグネシウム部品事業・金型事業の収益確保とFA・ロボット事業の拡大、自動車用内装部品事業では製造効率の向上と新規顧客の開拓に努めてまいります。

グループを挙げて、基幹情報システムの再構築、グローバルな生産戦略・購買戦略と品質管理の推進、IT・デジタル化に対応した特許戦略および特許取得強化、グループ内部資金と事業インフラの効果的な運用、効率的な物流



体制の確立、違法経営の徹底、地球環境対応、安全衛生管理の徹底に努めます。

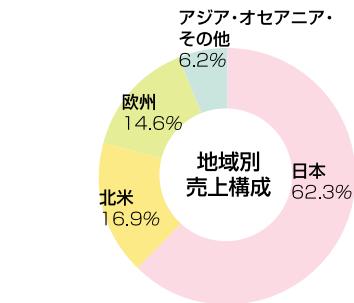
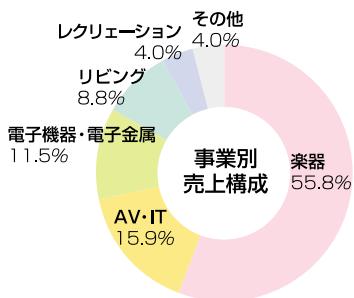
国内では個人消費の回復の兆しが見えず、また世界経済の先行きにも懸念が広がる中、引き続き厳しい状況が予想されますが、ヤマハグループ一丸となって収益力の向上および業務の合理化・効率化に努め、株主の皆様のご期待にこたえていく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2003年6月
代表取締役社長

伊藤 修二

連結事業の概況



楽器事業

楽器は、堅調な海外市場に支えられて、売上げを伸ばしました。ピアノは、欧米での売上げが伸びました。電子楽器も、ポータブルキーボード、電子ピアノ等が売上げを伸ばしました。その他の楽器では、弦楽器と打楽器が堅調に推移しました。音楽教室は、少子化の影響により子供の在籍生徒数が減少し、売上げ減少となりましたが、英語教室は、低年齢層を中心に在籍生徒数が増え、売上げ増加となりました。着信メモディー配信サービスは、会員数は増加しましたが、競争の激化により売上げは微減となりました。

以上により、当事業の売上高は2,926億47百万円(前期比2.0%増加)、営業利益は97億92百万円(前期比106.7%増加)となりました。

主要連結子会社
(株)ヤマハミュージック東京他販売子会社11社
Yamaha Corporation of America
Yamaha Canada Music Ltd.
Yamaha Music Holding Europe G.m.b.H
Yamaha Music Central Europe G.m.b.H
Yamaha-Kemble Music (U.K.) Ltd.
Yamaha Musique France S.A.S.
P.T. Yamaha Music Manufacturing Asia
雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司
天津雅馬哈電子楽器有限公司

主要製品
ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器、教育楽器、音響機器、防音室、音楽教室、英語教室、コンテンツ配信、調律

177期より「楽器・音響事業」を「楽器事業」と「AV・IT事業」に分けて記載することとしました。

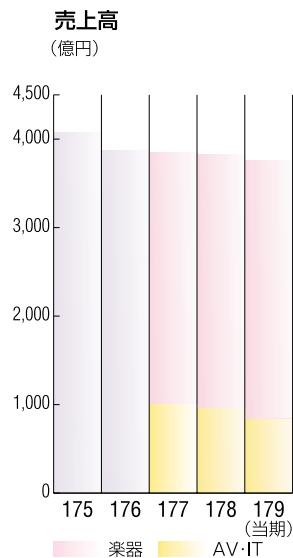
AV・IT事業

オーディオは、ホームシアター関連商品が引き続き順調に推移しました。情報通信機器につきましては、パソコン用CD-R/RWドライブ後付タイプの急激な商品市場の縮小とこれに伴う同事業の撤退により、大幅な売上げ減少となりましたが、不採算商品の絞り込みにより、営業損益は改善されました。

以上により、当事業の売上高は836億70百万円(前期比12.1%減少)、営業利益は32億50百万円(前期比7.0%増加)となりました。

主要連結子会社
Yamaha Electronics Corporation, USA
Yamaha Elektronik Europa G.m.b.H
Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn.Bhd.
雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司

主要製品
オーディオ、情報通信機器



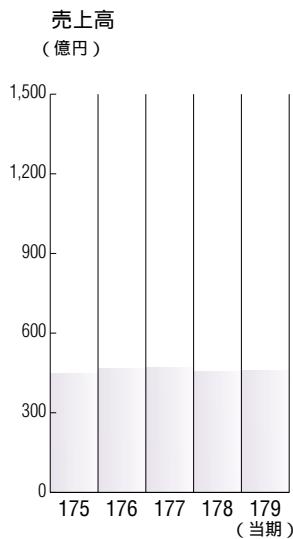
リビング事業

住宅建設が2年連続で低い水準となる中で、商品特性のあるシステムバスやシステムキッチン販売を販売することにより売上げの確保に努めましたが、売上げは横ばいにとどまりました。

以上により、当事業の売上高は460億31百万円(前期比0.7%増加)、営業利益は4億61百万円(前期比55.9%減少)となりました。

主要連結子会社
ヤマハリビングテック(株)

主要製品
システムキッチン、バスタブ、洗面化粧台、家具、住設部材



電子機器・電子金属事業

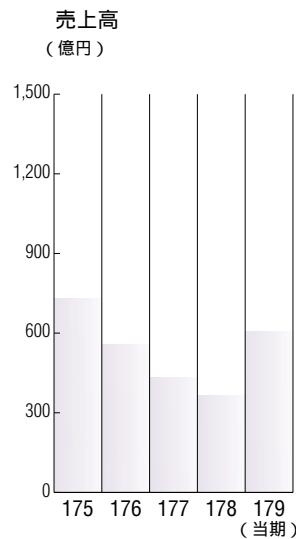
半導体は、携帯電話用音源LSIが韓国および中国市場の需要にも支えられ大幅に売上げを伸ばしました。

電子金属材料は、リードフレーム材料やパネ材料の需要が戻り売上げは増加しました。

以上により、当事業の売上高は605億54百万円(前期比65.3%増加)、営業利益は192億82百万円(前期比343.1%増加)となりました。

主要連結子会社
ヤマハ鹿児島セミコンダクタ(株)
ヤマハメタニクス(株)

主要製品
半導体、特殊合金



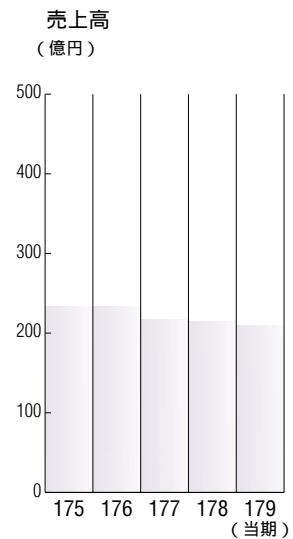
レクリエーション事業

国内旅行業界の低迷の中、「葛城北の丸」や「合歓の郷」では集客数は伸ばしましたが、全般的に顧客一人当たりの売上げ単価が低下したことから売上げは減少となりました。

以上により、当事業の売上高は209億3百万円(前期比3.2%減少)、営業損失は11億10百万円(前期は営業損失17億41百万円)となりました。

主要連結子会社
(株)汧口開発公社

主要製品
観光施設・宿泊施設・スキー場およびスポーツ施設の経営



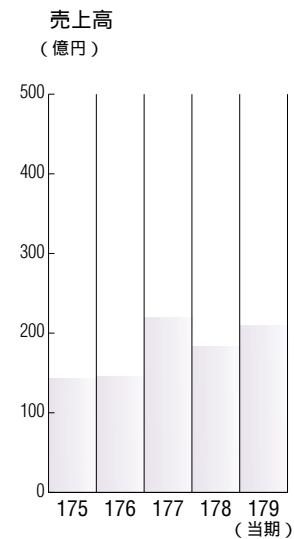
その他の事業

ゴルフ用品は、新商品「インプレス」シリーズが売上げを伸ばしました。FA・金型事業は、FA部門の売上げは減少しましたが、携帯電話用マグネシウム部品が大幅に売上げを伸ばしました。自動車用内装部品はモデルチェンジの狭間で売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は209億56百万円(前期比14.3%増加)、営業利益は3億65百万円(前期は営業損失3億89百万円)となりました。

主要連結子会社
ヤマハファインテック(株)

主要製品
ゴルフ用品、自動車用内装部品、FA機器、金型



「大人の音楽レッスン」は、

憧れていたピアノを始めた、無理だと思っていたバイオリンを、今、手にしている...

そんな音楽に目覚めた大人たちにより、新たな音楽市場が創り出されようとしています。



「大人の音楽レッスン」専用会場の開設が、全国の都市部を中心に進められています。

いずれの会場も、レッスンの待ち時間をゆったりと過ごしていただけるロビー空間を備え落ち着いたラウンジという雰囲気です。



大人の音楽レッスン

「大人の音楽レッスン」は、全国の約1,600会場で展開する、世界でも最大規模の大人向け音楽教室です。「ヤマハポピュラーミュージックスクール(PMS)」としてスタートして16年、「大人の音楽教室」として9年、現在の「大人の音楽レッスン」の生徒数は約9万名。20～30代の女性が多く、最近では40～50代の男性の姿も目立ちます。また、中高年向け講座の開設により、60才以上の熟年層の生徒も増えています。

全24コースを開設。管楽器系、弦楽器系、鍵盤系、ヴォーカル系、バンド系から、リコーダー、オカリナ、ウクレレといった手軽な楽器演奏まで、豊富なコースを展開しています。今後も都市部を中心に会場を増やし、大人の音楽市場をリードしていきます。

<http://www.yamaha-ongaku.com/>

楽器演奏を趣味とする、多くのYAMAHAユーザーを生み出しています。



100名収容の多目的スタジオでは、オープニングイベントとして「座・ジローズ」のコンサートが開催されました。

ミュージッククラブ札幌

音楽をアクティブに楽しむ大人たちが集う場所。大人のための会員制音楽クラブ「ミュージッククラブ」が、2002年12月、全国に先がけて札幌にオープン。ゆったりくつろげるラウンジや練習スタジオ、ライブパーティが楽しめるサロンなどを提供しています。

学生のころバンドをやっていた、今でも時々ギターを弾いている。最近、昔の仲間とまたバンドをやりたいなあと思っている - バンドをやりたいが、メンバーがいない - 青春回帰を夢見始めた大人たち。ミュージッククラブは、そんな人々を応援し、活動再開のために様々なサポートをしていきます。

札幌でのマーケット検証の後、東京をはじめとする全国主要都市で展開予定です。

<http://www.muse-club.biz/>

ヤマハ楽器レンタルシステム

楽器を持っていない方にも、気軽にレッスンを始めていただきたい。

楽器レンタルは、「レッスンが続くかわからないから」と、楽器購入をためらっている方や、趣味で憧れの楽器を始める方に最適なシステムです。豊富な種類の楽器を取り揃え、レンタルから購入への切り替えも可能です。「楽器レンタル」ビジネスの開始により、大人の生徒をはじめ楽器愛好者の拡大を目指します。

ヤマハ(株)の100%出資の子会社であるミュージックリース(株)が事業展開し、本年4月1日より、ヤマハ楽器子会社や特約店など、全国約500拠点でサービスを開始しました。初年度の売上は1億円を見込んでいます。

<http://www.music-lease.co.jp/>



<http://www.holiday.yamaha.co.jp/>

ヤマハホームページ「大人を休む日」

30代以上の成人層にアクティブな休日の過ごし方をご提案するホームページ「大人を休む日」を開設しました。演奏、レッスン、映画などのコンテンツや、DVD、CD、楽譜などのソフト情報を提供しています。また、大人の音楽レッスンのレポートや、生徒の皆様のご感想などもご紹介しています。



ヤマハ新宿クラスのバイオリン教室の生徒さんにインタビューすると、「グループなので皆と一緒に気軽に弾ける」「1フレーズでもそれらしく弾けるとうれしい」「仕事との調整が大変なこともあるが、これからも続けたい」等、意欲的です。

**上原彩子、チャイコフスキー国際コンクール
ピアノ部門で優勝**

2002年6月にロシア・モスクワで開催された「第12回チャイコフスキー国際コンクール」ピアノ部門で、ヤマハマスタークラスに在籍する新鋭ピアニストの上原彩子さんが優勝しました。上原さんはヤマハコンサートグランドピアノ「New CF S」を使用しましたが、日本人演奏者が国産ピアノを使用して同コンクールで優勝したのは初めてです。前回の優勝者、デニス・マツーフさん(ロシア)に続き、ヤマハピアノは同コンクールで2回連続して優勝者に使用されました。なお、今回のコンクールでは本選出場者の半数がヤマハピアノを使用し、しかも優勝者が使用したことから、「New CF S」はコンサートグランドピアノとして最高の評価を得たことになります。



**中国市場の成長に伴い、
同国内の事業拠点を整備・強化**

急速に成長する中国市場で円滑に事業を運営するとともに、国内販売機能の集約化を図るため、2002年5月、北京に統括会社「ヤマハ楽器音響(中国)投資有限公司」を設立しました。また、AV・IT事業の製造会社「ヤマハ電子(蘇州)有限公司」が2003年3月に稼働を開始。さらに、アップライトピアノとギターの中国市場への供給拠点として、またグローバルな競争力の強化のため、新たに楽器製造会社「杭州ヤマハ楽器有限公司(仮称)」を設立します。



競争力強化のため業務提携を推進

住宅設備機器の製造販売を行うヤマハリビングテック株式会社は、2002年11月、事業の強化とリフォーム需要への対応力を高めるため、株式会社エア・ウォーター・リビングと、住宅用浴室機器に関する包括的な業務提携に合意しました。また、FA(ファクトリーオートメーション)用設備等の製造販売を行うヤマハファインテック株式会社は、2002年12月、FAおよび産業用ロボットのトップメーカーであるファナック株式会社と、仕上げ加工用ロボット分野における業務提携契約を締結しました。



**中島みゆき「地上の星」、オリコンチャート第1位を獲得、
148週連続チャートインの新記録を樹立**

昨年大晦日の「第53回NHK紅白歌合戦」に初出場し、歌手別視聴率トップ(52.8%)を記録した中島みゆきさん。2000年3月にスタートしたNHK総合テレビのドキュメンタリー、「プロジェクトX～挑戦者たち」の主題歌/エンディングテーマで親しまれている「地上の星/ヘッドライト・テールライト」は、2003年1月20日付のオリコンシングルチャートで第1位を獲得。1970、80、90、2000年代にそれぞれ第1位を獲得するという偉業を達成しました。その後も「地上の星」はオリコンチャートトップ100にチャートインを続け、2003年5月にはついに148週連続チャートインの新記録を樹立しました。



故川上最高顧問お別れの会

2002年7月9日、来賓、OB、関係者など約3,200人が参加し、「故川上源一 ヤマハグループお別れの会」がしめやかに行われました。同会はJOC出身の小熊一弘さん作曲、ヤマハ吹奏楽団の演奏による「朝やけの歌」で始まり、長谷川武彦ヤマハ発動機株式会社社長が、開会の辞を述べ、最高顧問との思い出を語りました。「故人を偲ぶ映像」では、ありし日の最高顧問自身の言葉が披露され、トヨタ自動車株式会社の豊田章一郎取締役名誉会長は、送る言葉を述べられ、そして世界的なチェロ奏者のロストロポーヴィッチさんの「送る言葉」のビデオが上映されました。このほか、JOC出身のピアニスト、西村由紀江さんや中島みゆきさんが献奏を行いました。最後に伊藤社長が参加者皆様へのお礼のご挨拶を行い、ヤマハグループの幅広い事業領域を築かれた故人にお別れのことばを述べ、ヤマハブランドをさらに輝かせることを誓い、会を締めくくりました。

Premium
New Comers

簡単に演奏気分を味わえる、光るギター「EZ-EG」

「EZ-EG」は、インターネットで消費者の意見を募りながら開発した、消費者参加型の商品です。伴奏曲に合わせて片手で弦を弾くだけで、手軽に演奏気分が楽しめます。レッスンモードでは、棹の部分の光スイッチがコード進行に合わせて光り、押さえる部分を教えてくれます。20の音色と36の楽曲を内蔵。インターネットから好みの曲を追加できます。



臨場感あふれるホームシアターへのいざない「CinemaStation S80」

「CinemaStation S80」は、ハイクオリティな音と映像が楽しめる本格派DVDホームシアターサウンドシステム。独自の音場創生技術と低音再生技術によってもたらされる臨場感あふれるサウンドと、その洗練されたスタイリッシュなデザインが潤いのある豊かなリビングシアターを演出します。



思いのままに使いこなせるゴルフクラブ「インプレス」シリーズ

「inpres」は、「自分のプレースタイルを認識したゴルファーが自分の思いのままに使いこなせる」ことを目指して開発された、ヤマハの新しいゴルフクラブシリーズです。ゴルフ歴の長い、こだわりを持つゴルファーの方々に向けて、藤田寛之プロが開発に参加したプロ仕様の「inpresV」、飛距離を伸ばす「inpresD」、ショットを安定させる「inpresG」の3種類を用意しました。



ヤマハグランドピアノ製造 100周年記念モデル

2002年はヤマハがグランドピアノの製造を開始して100年を迎えた年。長年のご愛顧に感謝して記念モデルを発売しました。好評の既存モデルにグレードアップを施した「C3AE」「A1AE」、最もお求めやすい価格を実現したサイレント専用「GC1S」、インテリア性を重視したスタイリッシュな「C1ME」とそれぞれ特長のある4品番です。発売以来、多くのお客様のご支持をいただき当初計画を大幅に上回るご注文をいただくことができました。

サイレントギターのフォークギターモデル「SLG-100S」

「SLG-100S」は、フォークギターならではの演奏性を実現したサイレントギターです。ジャンルや世代を超えて幅広く愛好されるフォークギターは、数多くのファンからサイレント版の発売が待ち望まれていました。斬新かつ携帯性に優れた本体デザイン。イメージアーティストには、中島みゆきさんを起用しています。



ラジカセ感覚で気軽な音楽作り「サウンドスケッチャー SH-01」

「サウンドスケッチャー SH-01」は、シンプルな操作で手軽に音楽制作が楽しめるMP3ミキシングレコーダーです。CDグレードまでの高品位なデジタル録音が可能で、楽器伴奏にボーカルやコーラスを重ねるなど、多重録音もボタン一つ。パソコンとつなげば、Eメールで曲データの交換もできます。インターネットで消費者の意見を募りながら開発した商品です。



自由度と表現力の高いカスタムサクソフォン「YAS-82Z」「YTS-82Z」

「YAS-82Z(アルト)」「YTS-82Z(テナー)」は、プレーヤーのイメージーションをストレートに表現できることを追求した、カスタムモデルのサクソフォンです。自由な演奏スタイルや多彩な音楽表現を可能とし、明るく際立つ、立体感のあるサウンドが特徴。クラシックや吹奏楽はもちろん、ジャズなどのポピュラー音楽まで幅広いジャンルで使用できます。



人が集まるコミュニケーションキッチン「ドルチェ ラウンドタイプ-S」

2002年度グッドデザイン賞を受賞した「ドルチェシリーズ ラウンドタイプ」。その第3弾として誕生したのが「ドルチェ ラウンドタイプ-S」です。「集う・彩る・創る事を「もっと自由に楽しむ」をテーマに、料理やおしゃべりが楽しめる快適なオープンキッチンをご提案しています。

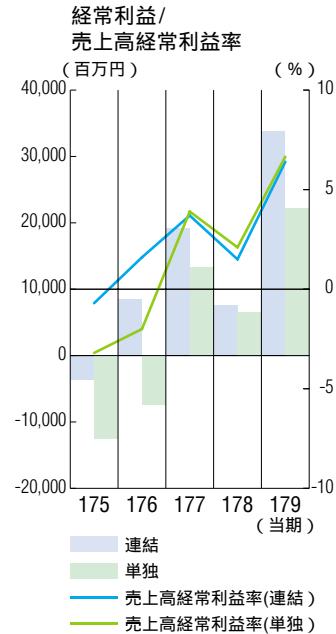
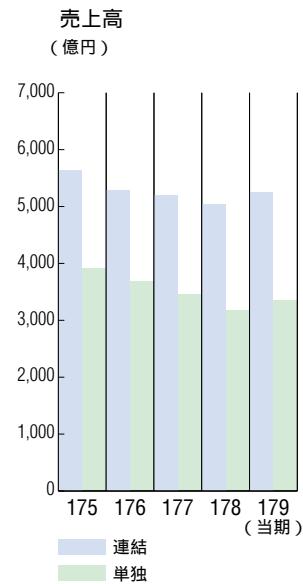
色の組み合わせは2,000パターン以上。卵型のクックテーブルと組み合わせると調理と食事のつながりをもっと広がります。



● 連結業績の推移 & ハイライト

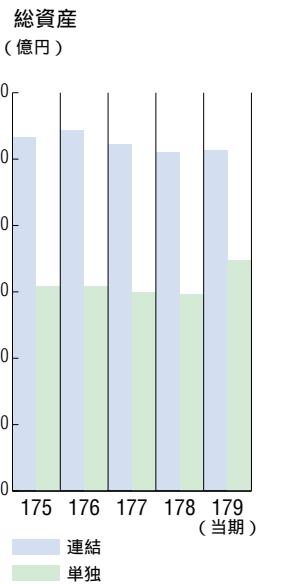
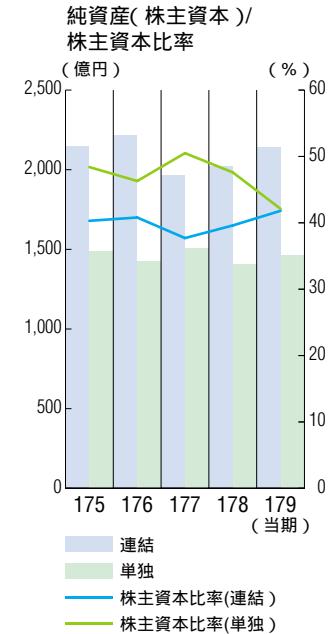
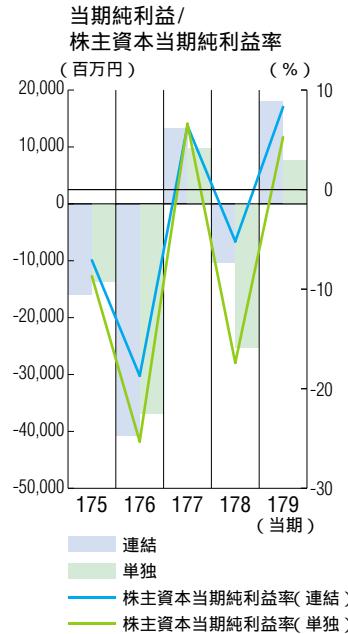
	(期)	175期 99年3月期	176期 00年3月期	177期 01年3月期	178期 02年3月期	179期(当期) 03年3月期
売上高(億円)	上半期			2,512	2,487	2,537
	通期	5,637	5,278	5,191	5,044	5,247
経常利益(百万円)	上半期			13,969	7,520	14,238
	通期	3,695	8,506	19,238	7,680	33,839
当期純利益(百万円)	上半期			10,028	7,234	10,075
	通期	15,879	40,777	13,320	10,274	17,947
純資産(株主資本)(億円)		2,148	2,217	1,967	2,019	2,144
総資産(億円)		5,328	5,430	5,224	5,096	5,127
1株当たり純資産(円)		1,040.56	1,073.75	952.62	978.15	1,040.06
1株当たり当期純利益(円)		76.89	197.45	64.50	49.75	86.65

(注)176期以前については、上半期の連結決算は実施しておりません。



● 単独業績の推移 & ハイライト

	(期)	175期 99年3月期	176期 00年3月期	177期 01年3月期	178期 02年3月期	179(当期) 03年3月期
売上高(億円)	上半期	2,054	1,996	1,783	1,729	1,720
	通期	3,919	3,691	3,461	3,167	3,340
経常利益(百万円)	上半期	2,154	637	10,382	8,637	10,998
	通期	12,586	7,388	13,338	6,530	22,218
当期純利益(百万円)	上半期	748	15,946	7,470	8,699	7,669
	通期	13,711	36,798	9,685	25,328	7,706
純資産(株主資本)(億円)		1,488	1,423	1,508	1,407	1,463
総資産(億円)		3,075	3,074	2,985	2,958	3,474
1株当たり純資産(円)		720.67	689.46	730.36	681.58	709.03
1株当たり当期純利益(円)		66.39	178.18	46.90	122.65	36.95



● 連結貸借対照表の要旨

単位百万円

科目	179期(当期)	178期	科目	179期(当期)	178期
	'03年3月期	'02年3月期		'03年3月期	'02年3月期
資産の部			負債の部		
流動資産	221,089	211,140	流動負債	158,148	144,498
現金及び預金	44,485	41,074	支払手形及び買掛金	39,462	36,880
受取手形及び売掛金	81,755	74,519	短期借入金	27,078	47,871
棚卸資産	80,144	84,264	一年以内償還の転換社債	24,317	
繰延税金資産	10,489	9,332	一年以内返済の長期借入金	10,090	4,363
その他	6,839	4,624	未払費用及び未払金	42,501	41,987
貸倒引当金	2,625	2,675	未払法人税等	3,101	1,224
固定資産	291,627	298,522	諸引当金	3,097	3,237
有形固定資産	178,724	185,261	その他	8,498	8,933
償却資産	100,806	106,187	固定負債	136,171	158,486
土地	76,835	78,069	転換社債		24,317
その他	1,082	1,003	長期借入金	28,951	19,615
無形固定資産	813	1,202	再評価に係る繰延税金負債	13,577	14,638
投資その他の資産	112,089	112,058	退職給付引当金	53,988	59,074
投資有価証券	77,622	76,307	長期預り金	36,848	38,472
繰延税金資産	24,663	26,384	その他	2,805	2,367
その他	11,137	10,314	負債合計	294,319	302,984
貸倒引当金	1,334	947	少数株主持分		
			少数株主持分	3,925	4,712
			資本の部		
			資本金	28,533	28,533
			資本剰余金	40,052	26,924
			利益剰余金	162,344	157,589
			土地再評価差額金	16,152	16,482
			その他有価証券評価差額金	378	766
			為替換算調整勘定	32,753	28,280
			自己株式	236	49
			資本合計	214,471	201,965
資産合計	512,716	509,663	負債、少数株主持分及び資本合計	512,716	509,663

● 連結損益計算書の要旨

単位百万円

科目	179期(当期)	178期
	'02年4月～'03年3月	'01年4月～'02年3月
売上高	524,763	504,406
売上原価	338,440	340,646
延払未実現利益	133	235
販売費及び一般管理費	154,413	152,951
営業利益	32,043	11,043
営業外収益	9,994	5,140
営業外費用	8,197	8,503
経常利益	33,839	7,680
特別利益	460	4,536
特別損失	11,687	18,001
税金等調整前当期純利益	22,612	5,784
法人税、住民税及び事業税	3,962	1,507
法人税等調整額	65	2,429
少数株主利益	636	551
当期純利益	17,947	10,274

● 連結剰余金計算書の要旨

単位百万円

科目	179期(当期)	178期
	'02年4月～'03年3月	'01年4月～'02年3月
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	26,924	26,924
資本剰余金増加高	13,127	
資本剰余金期末残高	40,052	26,924
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	157,589	170,496
利益剰余金増加高	19,754	573
利益剰余金減少高	14,999	13,480
利益剰余金期末残高	162,344	157,589

● 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位百万円

科目	179期(当期)	178期
	'02年4月～'03年3月	'01年4月～'02年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,052	29,016
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,645	10,437
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,582	12,880
現金及び現金同等物に係る換算差額	504	1,122
現金及び現金同等物の増減額	2,319	6,821
現金及び現金同等物の期首残高	40,571	32,725
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	85	1,025
現金及び現金同等物の期末残高	42,976	40,571

● 貸借対照表の要旨

単位百万円

科目	179期(当期)	178期	科目	179期(当期)	178期
	03年3月期	02年3月期		03年3月期	02年3月期
資産の部			負債の部		
流動資産	104,521	94,992	流動負債	88,961	60,410
現金及び預金	19,127	22,417	支払手形及び買掛金	24,451	22,638
受取手形及び売掛金	48,513	35,979	短期借入金	6,461	1,036
棚卸資産	27,748	28,111	一年以内償還の転換社債	24,317	
繰延税金資産	7,969	7,333	一年以内返済の長期借入金	6,220	
その他	2,507	2,392	未払費用及び未払金	23,011	21,124
貸倒引当金	1,344	1,242	預り金	817	1,029
固定資産	242,978	200,868	その他	3,683	14,581
有形固定資産	118,470	76,844	固定負債	112,143	94,721
償却資産	54,139	27,433	転換社債		24,317
土地	63,937	48,940	長期借入金	17,038	6,220
その他	393	471	再評価に係る繰延税金負債	10,169	11,115
無形固定資産	110	191	退職給付引当金	46,228	51,455
投資等	124,397	123,832	役員退職慰労引当金	721	623
投資有価証券	19,599	21,811	長期預り金	37,020	
子会社株式・出資金	77,253	71,542	その他	965	988
繰延税金資産	22,914	24,917	負債合計	201,105	155,131
その他	5,704	6,389	資本の部		
貸倒引当金	1,074	827	資本金	28,533	28,533
資産合計	347,499	295,861	資本剰余金	40,052	26,924
			利益剰余金	75,115	68,397
			土地再評価差額金	2,426	16,081
			其他有価証券評価差額金	449	841
			自己株式	183	49
			資本合計	146,394	140,730
			負債及び資本合計	347,499	295,861

● 損益計算書の要旨

単位百万円

科目	179期(当期)	178期
	02年4月～03年3月	01年4月～02年3月
売上高	334,078	316,742
売上原価	245,721	247,821
延払未実現利益	124	226
販売費及び一般管理費	66,583	63,509
営業利益	21,897	5,637
営業外収益	1,661	2,127
営業外費用	1,340	1,234
経常利益	22,218	6,530
特別利益	382	4,255
特別損失	13,743	35,097
税引前当期純利益	8,857	24,312
法人税、住民税及び事業税	100	100
法人税等調整額	1,051	915
当期純利益	7,706	25,328
前期繰越利益	4,557	4,810
土地再評価差額金取崩額	869	
中間配当額	1,031	826
当期末処分利益	12,101	21,344

● 利益処分

単位円

179(当期)	
03年3月期	
当期末処分利益	12,101,583,123
特別償却準備金取崩高	9,000,000
圧縮記帳積立金取崩高	393,000,000
合計	12,503,583,123
これを次の通り処分する。	
利益配当金(1株につき5円)	1,031,794,620
役員賞与金	80,000,000
(うち監査役賞与金)	(12,000,000)
圧縮記帳積立金	330,000,000
買換資産取得特別勘定積立金	440,000,000
別途積立金	6,200,000,000
次期繰越利益	4,421,788,503

(注)平成14年12月10日に、1,031,989,490円(1株につき5円)の中間配当を実施しました。

株式関連

株式の状況

会社が発行する株式の総数	700,000,000株
発行済株式総数	206,523,263株
株主数	12,965名

株主分布状況

株主構成	株主数	株式数
金融機関	91名	125,559千株
個人・その他	12,328	22,664
その他国内法人	222	14,959
外国人	294	42,409
証券会社	29	909
政府・地方公共団体	1	20

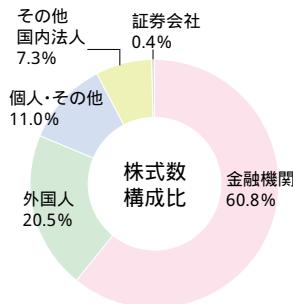
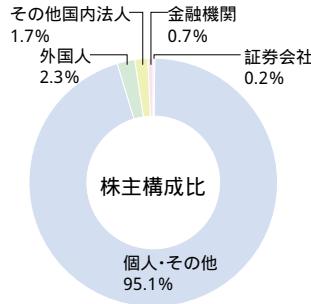
大株主の状況

株主名	所有株式数	議決権比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,013,200株	6.83%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13,245,300	6.45
株式会社三井住友銀行	9,906,404	4.83
株式会社みずほコーポレート銀行	9,275,404	4.52
三井住友海上火災保険株式会社	9,269,925	4.52
株式会社静岡銀行	8,349,855	4.07
株式会社みずほ銀行	8,288,404	4.04
住友生命保険相互会社	7,300,000	3.56
日本生命保険相互会社	6,964,452	3.39
ノザン・トラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	6,431,300	3.13

転換社債の状況

銘柄	第2回無担保転換社債
発行年月日	1988年9月30日
発行総額	25,000百万円
利率	年1.9%
転換価額	2,200円
未償還残高	24,317百万円
償還期限	2004年3月31日

株価および株式売買高の推移
(東京証券取引所)



(2003年3月31日現在)

会社の概要

商号
ヤマハ株式会社
YAMAHA CORPORATION

本店
〒430-8650
静岡県浜松市中沢町10番1号

設立
1897年10月12日
(創業1887年)

資本金
28,533,357,385円

従業員数
18,547人(連結)
6,109人(単独)

いずれも臨時従業員を含んでおりません。

(2003年3月31日現在)

役員

取締役
代表取締役社長
伊藤修二

専務取締役
岸田勝彦

常務取締役
前嶋邦啓
和智正忠
江川宣之

取締役
梅田吉弘
花本眞也
加藤博万
黒江常夫

監査役
太田直幹(常勤)
堀越美知夫(常勤)

鈴木重文
中村公之

執行役員
篤田勝宏
林田甫
戸部儀和
牧野時久

梅村充
高橋源樹
関口博
田丸卓也

(2003年3月31日現在)

株主メモ

決算期

3月31日

基準日

3月31日(その他必要があるときは、予め公告いたします)

定時株主総会

6月

利益配当金受領株主確定日

3月31日

中間配当金受領株主確定日

9月30日

1単元の株式数

100株

公告掲載新聞

東京都において発行する日本経済新聞

貸借対照表ならびに損益計算書のホームページアドレス

<http://www.yamaha.co.jp/ir/kessan/index.html>

名義書換代理人

東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱場所

〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号
中央三井信託銀行株式会社
名古屋支店 証券代行部
Tel: 052-262-1520

同取次所

中央三井信託銀行株式会社本店および全国各支店、日本証券代行株式会社本店および全国各支店

その他

株式の名義書換、単元未満株式の買取請求、配当金のお支払いおよび諸届等のお問合せは、上記名義書換代理人の事務取扱場所ならびに同取次所でお取扱いいたします。

なお、「証券保管振替機構」に預託されました株券についての諸届および手続等に関するお問合せは、お取引先の証券会社へお願いいたします。住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。



感動を・ともに・創る

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号

TEL: 053(460)2211

[http:// www.yamaha.co.jp/](http://www.yamaha.co.jp/)

この事業報告書は、再生紙を使用しております。